
平成 3 1 年 第 2 回 臨時 会

上 富 良 野 町 議 会 会 議 録

平 成 3 1 年 3 月 2 9 日

上 富 良 野 町 議 会

目 次

第 1 号（3 月 2 9 日）

○議 事 日 程	1
○出 席 議 員	1
○欠 席 議 員	1
○遅 参 議 員	1
○早 退 議 員	1
○地方自治法第 1 2 1 条による説明員の職氏名	1
○議会事務局出席職員	1
○開会宣告・開議宣告	2
○議会運営等諸般の報告	2
○日程第 1 会議録署名議員の指名について	2
○日程第 2 会期の決定について	2
○日程第 3 議案第 1 号 平成 30 年度上富良野町一般会計補正予算(第 13 号)	2
○日程第 4 議案第 2 号 平成 30 年度上富良野町ラベンダーハイツ事業特別会計補正 予算(第 6 号)	2
○閉 会 宣 告	9

平成31年第2回上富良野町議会臨時会付議事件一覧表

議案 番号	件 名	議決月日	結 果
1	平成30年度上富良野町一般会計補正予算(第13号)	3月29日	原案可決
2	平成30年度上富良野町ラベンダーハイツ事業特別会計補正 予算(第6号)	3月29日	原案可決

○議事日程（第1号）

- 第 1 会議録署名議員の指名について
第 2 会期の決定について 3月29日 1日間
第 3 議案第1号 平成30年度上富良野町一般会計補正予算(第13号)
第 4 議案第2号 平成30年度上富良野町ラベンダーハイツ事業特別会計補正予算(第6号)
-

○出席議員（13名）

- | | | | |
|-----|-------|-----|--------|
| 1番 | 中澤良隆君 | 2番 | 岡本康裕君 |
| 3番 | 佐川典子君 | 4番 | 長谷川徳行君 |
| 5番 | 今村辰義君 | 6番 | 金子益三君 |
| 7番 | 北條隆男君 | 8番 | 竹山正一君 |
| 9番 | 荒生博一君 | 11番 | 米沢義英君 |
| 12番 | 中瀬実君 | 13番 | 村上和子君 |
| 14番 | 西村昭教君 | | |
-

○欠席議員（1名） 10番 高松克年君

○遅参議員（0名）

○早退議員（0名）

○地方自治法第121条による説明員の職氏名

- | | | | | |
|-----|---|-------|------------|-------|
| 町 | 長 | 向山富夫君 | 副町長 | 石田昭彦君 |
| 総務課 | 長 | 宮下正美君 | ラベンダーハイツ所長 | 北川和宏君 |
-

○議会事務局出席職員

- | | | | | | |
|---|---|-------|---|---|-------|
| 局 | 長 | 深山悟君 | 次 | 長 | 岩崎昌治君 |
| 主 | 事 | 大井千晶君 | | | |

午前9時00分 開会
(出席議員 13名)

◎開会宣告・開議宣告

○議長(西村昭教君) 御出席まことに御苦労に存じます。ただいまの出席議員は13名でございます。

これより平成31年第2回上富良野町議会臨時会を開会いたします。

直ちに、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

◎議会運営等諸般の報告

○議長(西村昭教君) 日程に入るに先立ち、議会運営等諸般の報告をいたさせます。

事務局長。

○事務局長(深山 悟君) 御報告申し上げます。

本臨時会は、3月26日に告示され、同日議案等の配付を行い、その内容につきましては、お手元に配付の議事日程のとおりであります。

本臨時会に提出の案件は、町長から提出の議案2件であります。

本臨時会の説明員につきましては、町長以下、関係者の出席を求め、別紙配付のとおり出席しております。以上であります。

○議長(西村昭教君) 以上をもって議会運営等諸般の報告を終わります。

◎日程第1 会議録署名議員の指名について

○議長(西村昭教君) 日程第1 会議録署名議員の指名についてを行います。

会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により、議長において、

9番 荒 生 博 一 君

11番 米 沢 義 英 君

を指名いたします。

◎日程第2 会期の決定について

○議長(西村昭教君) 日程第2 会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

本臨時会の会期は、本日1日間といたしたいと思いま

す。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(西村昭教君) 御異議なしと認めます。

よって、会期は、本日1日間と決定しました。

◎日程第3 議案第1号

◎日程第4 議案第2号

○議長(西村昭教君) 日程第3 議案第1号平成30年度上富良野町一般会計補正予算(第13号)、日程第4 議案第2号平成30年度上富良野町ラベンダーハイツ事業特別会計補正予算(第6号)を議題といたします。

関連がありますので、一括して提出者から提案理由の説明を求めます。

最初に、総務課長。

○総務課長(宮下正美君) ただいま一括上程いただきました、議案第1号平成30年度上富良野町一般会計補正予算(第13号)及び議案第2号平成30年度上富良野町ラベンダーハイツ事業特別会計補正予算(第6号)につきまして、提案の全体要旨を御説明申し上げます。

1点目は、ラベンダーハイツ事業の運営に関し、平成29年度に生じた臨時介護職員の退職及びその後の介護職員確保が十分に満たされない状態が継続し、施設定員に見合う入所者数を受け入れることができなくなったことから、サービス収入の減収を招くとともに、介護職員の確保対策として、臨時介護職員の処遇改善及び正規職員による介護職員の採用を行ってきたところであります。

ラベンダーハイツの今後の事業運営にあたっては、介護職員の確保に一定の目的がたち、今後、入所者について施設定員に見合う入所者の受け入れを順次行い、サービス収入の増収を目指して参りますが、一方で歳出予算においては、人件費水準の増加など、現行の施設規模における介護報酬水準では賅いきれない部分があることから、先日の第1回定例町議会における新年度予算において、一般会計からラベンダーハイツ事業特別会計に対し、経営安定支援に関する繰り入れを行うことについて、お認めいただいたところであります。

年度末を迎え、ラベンダーハイツ事業の決算見込みが概ね確定し、今年度会計で行った前年度繰上充用に要した費用及びサービス収入減により赤字決算が見込まれることから、その不足する額について、今般、一般会計から全額繰り入れを行うことで、赤字決算とならないようにするために、その所要の補正をお願いするものであります。

2点目は、単純な事務処理ミスにより、去る3月5日

に議決いただきました一般会計補正予算（第11号）において、文書一般管理費における通信運搬費で40万円の減額補正を行ったところですが、毎月の郵便料請求の振り分けにおいて、ふるさと応援モニター事業分を二重に差し引いていたことが判明し、本来必要のない減額補正を行ったところがあります。

このことから、本年度予算での最終支払い時期となる4月の支払い時において、庁舎郵便料金の予算に不足が生じることとなることから、減額補正した額について、改めて増額補正をお願いするものであります。

本案件については、極めて単純な事務処理の誤りにより、このような事態となりましたことを深くお詫び申し上げますとともに、今後、事務のチェック方法の強化に努めて参ります。大変申し訳ございませんでした。

なお、一般会計における必要な財源については、特別交付税の3月交付分が示されたことから、地方交付税の既決予算を増額するとともに、さらに余剰となる分については予備費に充当し、一般会計補正予算を調製したところがあります。

また、ラベンダーハイツ事業特別会計においては、歳入において一般会計からの繰入金と同額を一般会計繰入金として増額補正するとともに、サービス収入及び前年度繰上充用補てん金を減額補正し、ラベンダーハイツ事業特別会計補正予算を調製したところがあります。

それでは以下、議案の説明につきましては、議決項目の部分についてのみ説明をし、予算の事項別明細書につきましては省略させていただきますので、御了承願います。

最初に、議案第1号を御覧ください。

議案第1号平成30年度上富良野町一般会計補正予算（第13号）。

平成30年度上富良野町の一般会計の補正予算（第13号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）。

第1条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ6,082万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ74億1,826万8,000円とする。

第2項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

1ページをお開きください。

第1表につきましては、款ごとの名称と補正額のみ申し上げます。

第1表、歳入歳出予算補正。

1、歳入。

10款、地方交付税6,082万2,000円。

歳入合計、6,082万2,000円。

2、歳出。

2款、総務費40万円。

3款、民生費5,100万円。

12款、予備費942万2,000円。

歳出合計、6,082万2,000円。

以上で、補正の全体要旨と議案第1号平成30年度上富良野町一般会計補正予算（第13号）の説明といたします。

御審議いただき議決くださいますようお願い申し上げます。

○議長（西村昭教君） 次に町長より、発言の申し出がありますので、これについて許します。

町長、向山富夫君。

○町長（向山富夫君） ただいま議長のお許しをいただきましたので、補正予算の審議に先立ちまして、一言お詫びとお願いを申し上げます。ただ今上程いただきました補正予算につきまして、特にラベンダーハイツの繰り出し補正につきまして、経過等を少し触れさせていただきたいと思いますが、詳細につきましては過日行われました予算特別委員会において、経営の状況並びに経過等について既にお話しさせていただいたところでございます。皆様方の深い御理解をいただきまして、平成31年度の両、一般会計、さらにラベンダーハイツ会計ともに御議決をいただきましたこと、感謝申し上げます。

今回上程させていただいております補正予算につきましては、平成30年度のラベンダーハイツの決算をまたずに、平成29年度から繰上充用等を行って会計処理をして、運営してまいりましたラベンダーハイツにつきまして、この度、それらも含めまして収入不足につきまして、補正をさせていただきます。4月を間もなく迎えます新年度に向けて新たな心機一転、スタート台に立たせていただけることができればという思いで、補正をお願いするところでございます。

いずれにいたしましても、ただ今、総務課長の方からも一部触れさせていただきましたが、新年度に向けまして、これまで非常に不備でございました人員の確保等についても、一定程度目途が付き、新たな入所者を迎える準備等も順調に現在整っているというふうな報告も受けておりますので、皆様方の方から大変御心配やら、あるいは不信感をお与えてまいりました部分について解消できる目途が立ってきたということから、今回、補正をお願いして新たな出発を迎えたいという思いでございます。

いずれにいたしましても、このような町民の皆様方に多大な不安や、あるいは皆様方に不信感を与えることとなったことにつきましては、全て私の不徳といたすところでございますが、改めてお詫びを申し上げ、そして新年度に向けての新たなスタートの決意をさせていただければというふうに思うところでございます。

以上、申し上げます、審議に先立ちまして、私の思い等を述べさせていただいたところでございます。

大変皆様方に御心配をおかけいたしましたこと、改めてお詫び申し上げます、御挨拶とさせていただきますと思います。

何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

○議長（西村昭教君） 次に、提案理由の説明を引き続き求めます。

ラベンダーハイツ所長。

○ラベンダーハイツ所長（北川和宏君） 続きまして、平成30年度上富良野町ラベンダーハイツ事業特別会計補正予算（第6号）につきまして申し上げます。

なお、補正の要旨については、前段、総務課長から申し述べたとおりでありますので、議案の説明につきましては、議決項目の部分についてのみを説明し、予算の事項別明細書につきましては省略をさせていただきますので、御了承願います。

議案第2号を御覧ください。

議案第2号平成30年度上富良野町ラベンダーハイツ事業特別会計補正予算（第6号）。

平成30年度上富良野町のラベンダーハイツ事業特別会計の補正予算（第6号）は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算の補正）。

第1条、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

1頁をお開きください。

第1表につきましては、款ごとの名称と補正額のみを申し上げます。

第1表、歳入歳出予算補正。

1、歳入。

1款、サービス収入3,069万5,000円の減。

4款、繰入金5,100万円。

6款、諸収入2,030万5,000円の減。

歳入合計は、0円であります。

以上で、議案第2号平成30年度上富良野町ラベンダーハイツ事業特別会計補正予算（第6号）の説明といたします。

御審議いただきまして議決くださいますようお願い

申し上げます。

○議長（西村昭教君） これをもって提案理由の説明を終わります。

（発言する者あり）

○議長（西村昭教君） 9番、荒生博一君。

○9番（荒生博一君） 暫時休憩を求めます。

（「賛成」の声あり）

○議長（西村昭教君） 暫時休憩いたします。

再開を9時45分とします。

午前 9時15分 休憩

午前 9時45分 再開

○議長（西村昭教君） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

これより議案第1号及び議案第2号について、一括して質疑に入ります。

6番、金子益三君。

○6番（金子益三君） 一般会計の方で若干お伺いしたいのですが、今回、国の地方交付税が特別交付税ということとで約6,000万円強の補正がついておりました。

まず、この点について、どういった内容の積み上げによって、この6,000万円という数字になったのか、内容が分かれば教えていただきたいということと、合わせて、仮の話で申し訳ないのですが、仮にラベンダーハイツへの補てんがないとするのであれば、この6,000万円については、本来どのような形で、町としては対処する予定であったのか等々について、お伺いをいたします。

また、ラベンダーハイツ補正事業の方でございます。この間、いろいろな説明の中において、諸事情によりサービス収入が減ったことについては重々理解をしているところでございます。今後、31年度の予算についても一定程度の方向性は示されましたが、更なる具体的な経営安定に向けた取り組み等々について、どのような手法をとられるか。

特にお聞きしたいのは、今回、人件費相当が、相当重荷になっているということが浮き彫りになっております。サービス収入の歳入につきましては、人材の確保により一定程度の方向性が得られたということですが、これはやはりイタチごっこで、一方で歳入を補う分については歳出がどうしても出ていく構造になっておりますが、この点の抜本的な解決方法に向けた取り組み状況について、お伺いをいたします。

また、あわせて二の轍を踏まないようにということでもありますので、過度な窮屈すぎるということのは自分の

首を絞めることになりしますので、それらのないようなこともあわせて、お伺いしておきたいと思えます。

○議長（西村昭教君） 総務課長、答弁。

○総務課長（宮下正美君） 6番金子議員からありました4点の質問のうちの最初の2点の特別交付税の関係につきまして、私の方からお答えをさせていただきたく思います。

まず今回、補正をしました特別交付税の内容でございますが、こちらにつきましては、特別交付税の3月交付分ということで、交付を受けたところでございます。3月交付分の特別交付税につきましての内容につきましては、総額で交付額が示されるということで、この部分でいくらという部分については、3月交付分については、ちょっとわからないという形になってございます。

これは交付税総体を、総枠を各自治体の状況に応じて総額を配分して、結果、国としては全額を支払うということでございますので、これに関して上富良野町特交付3月分はいくらですよ、いくらですよという部分はお示しされないという形になっているということでございます。

それと、二つ目の今回、このハイツの関係の補正がなければ、この特別交付税の増額部分をどうしていたんだという部分に関しましては、例年そうですけれども、最終的には5月に決算が閉まった段階で、歳入として受けますので、繰越金の中で補正し、6月の補正の中で対応するというところで想定していたところでございます。

私の方からは以上です。

○議長（西村昭教君） ラベンダーハイツ所長、答弁。

○ラベンダーハイツ所長（北川和宏君） 6番金子議員の質問にお答えしたいと思います。

31年度の方向性ということで、更なる収入の確保が必要ではないかということで、当然そのためには入所者の確保が第一前提になってくるかなと思います。これまでも説明申し上げますけれども、平成30年度においては、なかなか介護士不足ということで、新たな入所者の受け入れが困難だということで、徐々に人がそろってきたとことで12月から新たな受け入れをしてきたところでありますけれどもなかなかそれも人手がまだ十分ではないということで、確保はしたんですけども辞めていく人がいる。それぞれ相殺されてきたというのが現実、今月まで来てるところです。今月もまた1人は入ったんですけども対象者が2人いるということで、現実1名減ということにもなっています。今後の計画につきましては、やはり更なる収入の確保ということでは、入所者確保ということで。

今回、新たに3名の新規採用者が入るということで、

まだまだ未熟ではありますけれども、人材が確保できてきたということで、新たな入所者の受け入れという体制が少しずつできてくるのかなということで。今考えているのはやはり、ひと月に1人は今の現状より増やしていくと。対象者がいれば一人の対象者がいれば2名を入れていくということで月1人増といういうことを目標に今、進んでいるところです。現在、3名の方もう既にお声をかけまして、4月中の入所を目標に、今、それぞれ体制を整えているところでありまして、5月以降も最低でも1人ずつ増えていって、秋の年間の目標が46というところに置いてありますので、平均が46になるためには秋にはその数字に達していないと後半、今までの少ない部分も回復するためにそれを増やしていかなければならないと最低の目標をそこにおきながら、現場と新たな入所者の状況をきちんと把握しながら受け入れ態勢を進めていきたいと思えます。

先ほども言いましたけれども、新たな人材も徐々に慣れてくると思えますので、その部分についても対応できるのではないかと考えていますので、なんとか現場でも協力を得ながら対応をしていきたいと考えておりますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（西村昭教君） 副町長、答弁。

○副町長（石田昭彦君） 6番金子議員の御質問にお答えさせていただきます。

今、ラベンダーハイツ所長の方から御説明させていただきましたように、一気にお客さんを入れていくということについては、現場もなかなか大変だろうとすることで、徐々に力をつけながら新しい入所者を迎えていくというような考え方で今いるところであります。

そのような中であって、来春に向けては、上富良野高校の方でも引き続き初級研修については実施を予定しておりますので、こういうような将来介護士等を希望するような学生さん等がいれば、新たな採用等も検討しながら体制を整えていかなければならないというふうに考えております。この春新たに3名の介護士さんを迎えますけれども、その段階においても全体の50床のキャパで考えた時に介護士さんをきちんと回していくのに1点数人不足しているという状況が見受けられていますので、こういうフルタイムで働ける人をあと、1点数人確保できれば、極めて安定的な職員の退職等がなければ安定したローテーションが組んでいけということでもありますので、来春にもそういった方向が必要であれば、そういう方向も考えていきたいというふうに考えております。

あと保険者であります町といたしましても、保健福祉課等を中心に会議を設けておりますので、今、年度をあ

けまして、4月早々にはそちらが中心になって町のそれぞれの事業所等も集めて、これからの状況等についての会議を進めながら、町内にはグループホームやそういった施設がありますし、そういう所においてはラベンダーハイツについては特浴がありますので、グループホームに入所されている方達の中でも普通入浴しかありませんので、介護4、5の方も入所されています。そういう方たちの中ではラベンダーハイツを希望される職員もいたり、施設側の方も、逆に普通浴で大丈夫な人を入所して、特浴が必要な人は特養に移ってもらうようなそういうような思いがありますので、そういう調整をしながらラベンダーハイツとして果たしていかなければならない機能を整備をしていきたいと考えているところでございます。

○議長（西村昭教君） 再質問ございますか。

6番金子益三君。

○6番（金子益三君） 特交の内容については、それぞれの年度の中の3月分ということなので、これにいくら、これにいくらという積み上げではないということで見分かりました。色々な特交の全枠だということでも理解しました。

今、最後に副町長が御発言していただいた、町全体のいわゆる介護ニーズの調整役というのが非常にこれから大事になってくるのかなど。今答弁の中でもあったようにいかに必要対象になっている方を適所適材のところの施設で受け入れられるか。また、それを機能するラベンダーハイツというものの、今後の投資計画等々また、必要になってくるとは思いますが、それをぜひ、包括支援センターを中心となって、介護者の人たちが、そもそも町長の元々の目的であります、上富良野で頑張っていた方が上富良野で住み続けることができるというかたいものに貫いていくためにも入所者が入れないという状況にならないようなことだけを今後にもしていただきたいと思っておりますし、その調整役というのは、今後、どういうふうな形で進めていくのでしょうか。

地域包括だけでいきますか。

○議長（西村昭教君） 副町長、答弁。

○副町長（石田昭彦君） 6番金子議員の御質問であります。基本的には、保健福祉課が中心となって、地域ケア会議が中心となって、それぞれサービス事業所がありますので、そういうところと連携しながら、その施設に応じた人たちを一番適材なところで、適材なサービスを提供していくというようなところを調整していくことが重要なというふうに考えているところであります。

○議長（西村昭教君） ほかに質問ございませんか。

11番米沢義英君。

○11番（米沢義英君） お伺いいたします。同僚の議員が主だった点、質問していただきました。さらに質問いたしますが、今後10年間で約2千万円ぐらいの人件費部分投入するという形の話であります。これは前提として、当然、新年度、31年度の計画にもありますようにショートを含めたデイサービスや特養含めた人員が確保されるという前提でなっているという条件であります。答弁にもありましたが、当然、入所者が病気で入院、退院するような、諸条件が加わればこれが、若干変わるというのが数字だというふうに思っております。そこでお伺いしたいんですが、町長はこの間、先の3月の予算委員会でも聞きましたが、繰上充用して経営をこのまま進めていくんだということに対する反省の弁というのもありました。しかし、この間やはり、交付税等がやはり、ほぼ全額と言っていいほど特養にまわらなければならないということになった場合、現状はそうです。そうしますと、同僚議員も言いましたが、やはり、他の用途に使われる部分が住民の福祉や暮らしのものに使われる部分が、特養に特化せざるを得ないという一大事、大問題だと言うふうに私は考えております。経営上それを支えるといった点では必要な財源の投入だというふうに思いますが、私はここで伺いたいのですが、町長自身の責任の問題なんです。従来のもう一度御確認しますが、繰上充用して一般会計からの繰り入れを行わない。これだけの交付税を投入しなければ、一財に入れなければ、経営が成り立たないところまで追い込んでしまった責任というのがあるというのがあると思うんですが、その責任はもう一度確認いたしますがどのように感じているんですか。それと同時に経営自体が、町長が求めてきた経営自体が失敗だったということでもありますから、町長自身、自ら減俸か、何らかをそういうことを考えているのかどうなのかこの点確認しておきたいというふうに思います。

私は、これから職員の方が相当苦勞され努力もされて頑張ってもらってという姿を本当に見て、新しい介護職員も入ってくるってということで、経営も一定の改善の方向に向かうと思っておりますが、しかし、つきまとっているのは、町長がこれまで示してきた経営方針が大失敗であったことの結果に対する責任がいまだに示されていません。ただ、謝るというだけでは僕は済まされないと思いますが、この点どのようにお考えなのか確認しておきたいと思っております。

次に伺いたいのは、総務費の中でいわゆる文書通信費40万円という形になっております。単なる総務課長は担当のチェックミスだというふうに言われております

が、この間もこういった事例が頻繁に起きるといふ状況になっております。会計システムで言えば、システム上縦横並びのいわゆる合算すれば、合計が出てくるシステムだといふふうに思っておりますが、しかし、人の目で見なければならぬ大事な問題が、こういったところで見落とされてきているという状況があると思うんですが、これいつこの時点でわかったのか。また、そのチェック体制、見落とされていたといふふうに思いますが、どうだったのか、この点確認いたします。

町長自身もこういう問題に対して、わずか40万だといふふうに思わないでくださいねこれはね。相対的な問題にも波及する小さな問題が大きな問題に広がるという世の中の末を見ていればそういう状況があるわけですから、この点についても町長自身の監督不行き届きという点も相当あるのではないかなといふふうに思いますが、詳細は町長自身わからないにしても、常日頃からきちっと職員に対する指導管理というのがあってしかるべきだといふふうに思いますがこの点確認しておきたい。

○議長（西村昭教君） 町長、答弁。

○町長（向山富夫君） 米沢議員の御質問にお答えさせていただきます。

この間、特にラベンダーハイツの安定運営につきましては、様々な試行錯誤を繰り返す中で、安定経営に向けて取り組んできたところでございます。しかしながら、結果といたしまして、その計画を達成することに至らなかったということは、これまでも御説明させていただいたところでございまして、私の責任の感じ方といたしまして認識しておりますが、今後、新たな安定した経営に向けてしっかりと取り組みしきかも、それは結果として示していくことが信頼回復につながる、また私の果たすべき責任の取り方だといふふうに理解をしておりますので今後におきまして、さらにラベンダーハイツのみならず職員の指導も含めまして、先ほど後段で御質問もありました職員の指導も含めまして、最高責任者として果たすべき責任をしっかりと果たして町民の皆さん方に安心して暮らしていただけるようなそういうまちづくりにまい進することが私の果たすべき責任と理解をしております。

以上でございます。

○議長（西村昭教君） 11番米沢義英君。

○11番（米沢義英君） それは前からの聞いている話で、私が言いたいのは、これだけのお金をいれなければならない、要するに早めに対処していればそんなにこういった赤字予算も膨らむ必要がなかったのではないかと、いふふうに考えている話で、その金額云々よりもそう

いふ手法をとるべきだったのではないかと、結果論ではありますが。しかし、私は、経営上で言えば一大問題だと思ふんですよ。これだけの経営方針が町から出たといふことであれば当然それなりのただ、将来の経営改善の方向で結果を示すことが、私の本分でそれが結果責任を全うすることだといふことではあるんですが、それ以外に、町長自ら減俸だとか、何らかの処分、自らするというお考えがないのかどうなのかこの点確認しておきたいと思ふます。

○議長（西村昭教君） 町長、答弁。

○町長（向山富夫君） 米沢議員の御質問にお答えさせていただきますが、先ほどお答えさせていただきましたように、経営の見直し等については、非常に様々な要因が重なりましてお示したような結果にいたらなかったということは、申し上げたとおりでございます。今後、そういったことの反省に立ちまして、それをこれからの運営にしっかりと反映させて、安定した経営に導いていくということが責任の取り方といたしましては、私は、そういう責任の取り方が取るべき姿だといふふうに理解しているところでございます。

○議長（西村昭教君） 再質問ありますか。

ほかにございませんか。

9番荒生博一君。

○9番（荒生博一君） 同僚議員も申し上げました、同じくラベンダーハイツ事業会計について質問させていただきます。

過日行われました予算特別委員会の中でも御答弁いただきましたがまず、平成27年度会計の赤字分を28年度の財源より繰上充用するという手法をとり、4年間の計画を基にその間、一定程度諸施設の利用人数であるとか、目標数値というのが4年間分しっかりと示された中で、繰上充用ということで我々は28年5月にその意をくみ取り、また、4年間という期間ではありますけれども、赤字分の1,800万円強の数字をその中で確実に埋めていくということで、議決をさせていただきました。まだ、その途中の3年目で今回、理事者の方では大きくかじ取りを右から左ぐらいい変えるようにこの5,100万円という金額を、いったん0にして、ハイツを4月以降新たなスタートを切りたいという旨での本日を迎えております。

私、一番の今回過日の予算特別委員会の中でお示されたこの31年度分に関しては、職員が一定程度利用者を迎えられるまでの体制整備のために、移行期という判断をもとに移行期分1,600万円のサポート、それから民間との人件費差異の分の2,800万円、合わせて4,400万円は我々しっかりと説明を受けた中

で、過日の予算特別委員会で認めさせていただきましたが、今回、繰上充用という手法からこの支援方法が変わってから一番変わったのは、努力目標、これからどうしていきたい、また、何年を区切り、どう方向を見定めていくというような数値等が一切示されておりません。非常にそれは危惧されるところで、今後におきましては、同僚議員の質問もありました通り、32年度以降はあるべき姿である特養であれば48名という入所者を迎えた中でその移行期分の1,600万円をなくして、一定程度2,800万円前後の件費は今後、サポートを続けることで説明のみでございまして、それに関しましては、色々な手法を検討、協議していく中で、変えられる要素というのはたくさんあると思います。そこで、もう一度このハイツのあるべき姿、それから今後というのを町長の考えをもう一度、お聞かせいただきたいと思っております。

○議長（西村昭教君） 町長、答弁。

○町長（向山富夫君） 荒生議員の御質問にお答えさせていただきます。

重複する部分もあろうかと思いますが、平成27年度以降、まず、収支が非常に均衡が保てなくなってきた経過を受けまして、私どもといたしましては、当初まず、一番、変動要因となりました介護職員の大きな変動。これは当時、改善計画を立てた当時は、想定をしておりませんでした。そして、繰上充用をもって経営安定を図りたいという経営が走り出した直後に介護人材が大きく、減少するという不測の事態と重なりまして繰上充用を重ねた中での改善計画について、これは、実効性が担保できないというような私といたしまして判断をさせていただいてところでございます。もとより繰上充用を活用するという会計処理につきましては、やはり、理想的に申し上げますと次の年度。しかし、2年、3年の年度をもって解消していくというのが、繰上充用で対応する方法かなというふうに理解しておりますので、そういったことから考えますとやはり、繰上充用を用いての経営改善というのはこれは現実的ではないと判断をして大きくかじを切らせていただいたところでございます。

それと合わせて、これからのラベンダーハイツをどのように、基本方針は何度も申し上げますが、いずれにいたしましても、利用者が確保ができてはじめて安定経営ができるというそういう性格の施設でございます。副町長からもお話させていただきましたように、共すれば今まで、ラベンダーハイツ独自で入居者確保に向けての情報収集。あるいは、そういったことを務めておりましたが、今回、ケア会議等を活用することによって、町内全体の介護を必要とする方々の状況というものが、一層

より具体的に把握できるようなことを確認できまして、そういった中で、病院の特養、老健も含めまして、それぞれ、一番その方にふさわしい、入所の在り方というものをご構築しようと。それによってラベンダーハイツがふさわしいという方がおのずと浮かび上がってくるということが分かりまして、そういったことを積み重ねていけば、平成32年度以降に目標としております入所者を確保するという点について、皆さんある程度確証をもって確認することができましたので、安定経営に結びつくものというふうに理解をしているところでございます。

それが他の施設の方々にとっても望ましいということがお互いに共有できますので、そういったことは非常に今まで欠けていた部分かなということでハイツだけでなく経営改善を立てるということだけでなく、もうちょっと、上富良野町全体を見た立体的な改善計画にすることが安定化につながるということに確信を持ちましたのでそういったことに努力を払いながら、ハイツを含めて施設介護を望まれている方はまだまだたくさん潜在しておりますので、特に申し上げますと、ラベンダーハイツでの入所が非常に困難になった時にですぬやむを得ず、他の施設にお世話になっているという方も現在おります。そういった方にも、もし、条件を整えばこちらの方でもお受けさせていただきたいということも発信しているようでございますので、改善に向けて確実に歩みを進めることができるというふうな前提のもとに、今回、新たなスタートを切らせていただきたいというお願いを申し上げているところでございます。

以上でございます。

○議長（西村昭教君） 9番荒生博一君。

○9番（荒生博一君） この将来に関してのお話は、ただ今の町長の答弁で一定程度は理解させていただきました。そこで、今回、過日行われました予算特別委員会の中でもこの移行期分支援の1,600万円の額面に対しては、非常に副町長も不確定な要素があるということでの御答弁でございました。また、同僚議員からの質問の中で、所長からもありました46名という31年度中の目標の数値、秋までにその数値に達しなければ、到底後半追いつかないというのは、この時点で非常に厳しい状況が今、4月、5月、6月を迎えるに見えていますので一件確認します。

来年の3月同じような状況で、このような議会の中で、4,400万円ではなく5千、6千という数字が見えたときに、その時には施設運営のためには我々は、また、一定程度、一般財源をもって、施設運営のためにお金を回さざるを得ないというところで、年々過ごしていかな

くてはならないということが、今後続くのが非常に懸念されます。そのような中で、町長のお考えとしては、32年度中にあるべき姿ということでの一定程度の数字は示されていますが、32年度中に方向は見出だせていただけますか。

○議長（西村昭教君） 町長、答弁。

○町長（向山富夫君） 荒生議員の御質問にお答えさせていただきます。

将来の確定的な見通しについては予測は不可能かなと思います。しかしながら、示した目標に向けての努力は当然続けてまいりますし、予特の中でも御意見等いただきましたように、実態をつまびらかに随時、必要に応じて、議会の方にもお示しし、共有していただくような手法をとというような御意見もいただいておりますので、そのようなことを繰り返すことによってさらに現場にも緊張感も生まれるでしょうし、しっかりした安定した改善が図られるように私は成果に結びついていくというふうにも確信しております。ただ、それは不動の数字かということになりますと、それはあくまでも予測予想で申しあげているものでございますので、それが100%それが約束されるというようなことは、中々、予想という性格上、難しいものかなというふうに思っておりますが、そこに向かって進むことについては普遍でございます。

以上であります。

○議長（西村昭教君） よろしいですか。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（西村昭教君） なければ、質疑を終了いたします。

討論を省略し、これより議案第1号を採決いたします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方の御起立を願います。

（賛成者起立）

○議長（西村昭教君） 起立多数であります。

よって、議案第1号平成30年度上富良野町一般会計補正予算（第13号）は、原案のとおり可決されました。原案のとおり可決されました。

次に、討論を省略し、これより議案第2号を採決いたします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方の御起立を願います。

（賛成者起立）

○議長（西村昭教君） 起立多数であります。

よって、議案第2号平成30年度上富良野町ラベンダーハイツ事業特別会計補正予算（第6号）は、原案のと

おり可決されました。

◎閉会宣告

○議長（西村昭教君） 以上をもって、本臨時会に付議された案件の審議は全部終了いたしました。

これにて、平成31年第2回上富良野町議会臨時会を閉会といたします。

午前11時08分 閉会

上記会議の経過は、議会事務局の調製したものであるが、その内容の正確なる事を証するため、ここに署名する。

平成31年3月29日

上富良野町議会議長 西村 昭 教

署 名 議 員 荒 生 博 一

署 名 議 員 米 沢 義 英